

平成29年度

京都教育大学附属桃山中学校

自己評価実施計画書

1. 本校の基本情報

| | |
|-----------|--|
| (1) 学校名 | 京都教育大学附属桃山中学校 |
| (2) 所在地 | 京都市伏見区桃山井伊掃部東町16 |
| (3) 学級数等 | 一般学級9学級(1学年3学級) 収容定員360人(1学級40人) 帰国生徒教育学級3学級(1学年1学級) 45人(1学級15人) ただし、第3学年は混合編成学級4学級で構成されている。 |
| (4) 児童生徒数 | 388人(男子196人・女子192人) |
| (5) 教職員数 | 校長(併任)1, 副校長1, 主幹教諭1, 教諭22(うち任期付教諭2), 養護教諭1, 非常勤講師3, ALT2, 事務職員3(専任1, 事務補佐員2), 用務員1 |

2. 本校の教育目標

「豊かな感性をもち、周りとかかわりながら自己を伸ばす生徒の育成」

生徒一人ひとりの個性を尊重し、豊かな情操を培うとともに、社会や人との関わりの中で主体的に学ぶ生徒の育成をめざす。(「豊かな感性、輝く個性、広がる共生」)

3. 京都教育大学附属学校園の目的

教育の実験、実証並びに実習の機関として、本学に附属学校(幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校)を置く。(本学学則第56条)

本学附属学校は、児童、生徒又は幼児に対して、学校教育法に定めるところにより、教育又は保育を行うとともに、本学における児童、生徒又は幼児の教育又は保育に関する研究に協力し、本学の計画に従い、学生の教育実習の実施に当ることを目的とする。(附属学校規程第2条)

4. 本校の学校教育計画(年度重点目標)

- (1) 目指すべきビジョン、ポリシーをもって、教育課程及び授業実践の研究を推進する。
- (2) 本学、附属学校園と連携、協働して、実践研究・教員養成を推進する。
- (3) 生徒にとって深く豊かに学び、仲間と共に人として成長できる学校教育の充実を図る。
- (4) 校内における危機管理(リスクマネジメント)の確立に努め、安心して安全な学校づくりを推進する。
- (5) 学校(教職員)と生徒、保護者(地域を含む)との信頼関係が構築された学校づくりを推進する。

5. 附属学校園の機能向上に関する取組

- (1) 教育実習指導のより一層の充実及び教育実習の改善を図る。
- (2) 大学の方針に基づく教員養成及び実践的教育研究に協力する。
- (3) 地域の教育力向上への貢献及び教育研究活動の成果の公表を図る。

6. 本校の特色

本校は、平常の授業をより充実させ、確かな学ぶ力と豊かな人間性の育成を目指すとともに、「豊かな感性、輝く個性、広がる共生」を合い言葉に、21世紀のグローバル社会で主体的に協働的に課題解決を図ることのできる人づくりを目指している。また、一般学級とともに、西日本の国立大学附属中学校では唯一の帰国生徒教育学級を特設し、帰国生徒の個々の課題に応じた特別な指導や帰国生徒のグローバルキャリアを生かした全校的な国際教育を推進し、その成果を地域に発信することで、学校環境の内外において進行する国際化への対応に貢献している。多様な背景を持つ生徒たちが共に学ぶことで、お互いの違いを理解し尊重しながら、学びあい、高めあう、多文化共生につながる、寛容で優しい学校文化と風土が構築されています。隣接する附属幼稚園・附属桃山小学校とは、平成7年度より幼小中連携教育研究を、また附属桃山小学校、附属高等学校とは、平成26年度より文科省指定「英語教育強化地域拠点事業」として英語教育の連携に取組み、英語教育の高度化をめざした授業開発をおこなっている。さらに大学が主導する「グローバル人材育成のプログラム開発」にも附属学校園が連携して取組み、その実践研究の成果を全国に発信している。

平成29年度 学校評価 年間計画

学校名: 京都教育大学附属桃山中学校

| 時期 | 評価の検討と実施等 |
|-------------|---|
| 平成29年 3月 | 平成28年度学校自己評価実施、学校評価結果及び改善策とりまとめ 保護者プリントにて平成28年度学校評価結果及び改善策等を保護者へ周知 |
| 4月 | 平成29年度学校運営方針、重点教育目標等策定 学校便り「ひろがる環」に平成29年度学校経営方針、重点教育目標等を掲載 |
| 5月 | 平成28年度学校評価結果及び改善策、平成29年度学校評価項目、平成29年度学校評価年間計画の学長への報告 |
| 6月 | 学校評議員候補者の確定 |
| 7月 | 全学年保護者懇談実施 |
| 8月 | |
| 9月 | |
| 10月 | |
| 11月 | 研究発表会参加者アンケート実施 |
| 12月 | 全学年保護者懇談実施 |
| 平成30年 1月 | 生徒アンケート実施 |
| 2月 | 研究発表会参加者アンケート実施 保護者アンケート実施 教職員アンケート実施 |
| 3月 | 保護者プリントにて平成29年度学校評価結果及び改善策等を保護者へ周知 学校評議員会実施 学校自己評価実施、学校評価結果及び改善策とりまとめ |
| 4月 | 平成30年度学校運営方針、重点教育目標等策定 学校便り「ひろがる環」に平成30年度学校経営方針、重点教育目標等を掲載 |
| 5月 | 平成29年度学校評価結果及び改善策、平成30年度学校評価項目、平成30年度学校評価年間計画の学長への報告 |

平成29年度 京都教育大学附属桃山中学校 学校評価

| | |
|------|--------------|
| 自己評価 | |
| A | 高いレベルで達成できた |
| B | 達成できた |
| C | 一部達成できなかった |
| D | ほとんど達成できなかった |

① 教育活動その他の学校運営に関する事項（学校教育法に基づく評価）

| 本年度の重点目標 | 具体的な取組内容 | 自己点検評価 | 自己評価区分 | 学校関係者評価 | 改善策 |
|-------------------------------------|--|--------|--------|---------|-----|
| (1) 教育方法と評価研究及び授業実践研究の推進 | <p>①次期学習指導要領をふまえながら、21世紀のグローバル社会に対応できる資質・能力の育成のために、教育課程や教育方法と評価のあり方の研究、及び効果的な授業の開発を行う。</p> <p>②大学教員の指導助言を得ながら、研究発表会を開催し、その成果を発信する。</p> | * | * | * | * |
| (2) 本学、附属学校園との連携・協働、実践研究、教員養成の充実 | <p>①大学が進める「グローバル人材育成プログラム」事業と連携して、本校独自の帰国生徒教育や総合的な学習等の特色ある教育活動の充実と発展、及び各教科や領域におけるカリキュラム開発や実践研究を行う。</p> <p>②大学教員、及び附属小学校、附属高等学校と協働して「外国語教育強化地域拠点事業」に取組み、中学校における英語教育の高度化、及び小中高の連携カリキュラム作成を行う。</p> <p>③附属幼稚園、附属桃山小学校と連携し、幼小中連携教育研究の充実発展に取り組む。</p> | * | * | * | * |

| | | | | | |
|---------------------------------------|--|---|---|---|---|
| <p>(3) 深く豊かに学び、人として成長できる学校づくり</p> | <p>①質の高い、確かな学力を保障するために日々の授業づくり、学習規律、学習環境の充実、改善に取り組む。</p> <p>②お互いの人権が尊重され、自己肯定感、自尊感情が育まれる学級、学年、全校集団づくりを推進する。</p> | * | * | * | * |
| <p>(4) 校内の危機管理の確立と安心・安全な学校づくり</p> | <p>①生徒の日常生活における行動や精神面での様子の掌握に努め、問題事象の未然防止を図る。また、問題事象を確認した場合は、迅速に教員間で情報の共有を行い、一致した指導方針で解決を図る。</p> <p>②学校安全計画に基づき、避難訓練等を計画的に実施すると共に、その他の突発的な事故に対応できるように、生徒指導方針、及びマニュアル等の整備、改善を進める。</p> | * | * | * | * |
| <p>(5) 学校と生徒・保護者との信頼関係の構築</p> | <p>①生徒一人ひとりを尊重し、指導、支援を丁寧に確実に行うとともに、教員間の情報共有と指導の統一を心がけ、保護者との連絡、連携を密に行う。</p> <p>②、HP や学校便り、懇談会等で生徒、保護者、学校関係者への教育活動の内容について情報提供を行う。</p> | * | * | * | * |

注) *印の欄は、年度末に記載予定

平成29年度 京都教育大学附属桃山中学校 学校評価

| 自己評価 | |
|------|--------------|
| A | 高いレベルで達成できた |
| B | 達成できた |
| C | 一部達成できなかった |
| D | ほとんど達成できなかった |

② 附属学校園の機能向上に関する事項

| 本年度の 重点目標 | 具体的な取組内容 | 自己点検評価 | 自己 評価 区分 | 学校関係者評価 | 改善策 |
|---|---|--------|----------------|---------|-----|
| 教育実習指導のより一層の充実及び教育実習の改善 (中期計画 35) | ①大学の現地教育運営委員会と協働し、教育実習指導や実習評価の改善に取り組む。 ②本校での教育実習生に対するオリエンテーション内容の充実を図る。 | * | * | * | * |
| 大学の方針に基づく教員養成及び実践的教育研究への協力 (中期計画 36) | ①大学の「グローバル人材育成プログラム」事業に協力し、附属学校においてカリキュラムの試行や授業実践を行う。 ②大学教員、附属学校園の教員と協働して「外国語教育強化地域拠点事業」及び「附属桃山地区学校園（幼小中）連携教育研究」に取り組む。 | * | * | * | * |
| 地域の教育力向上への貢献及び教育研究活動の成果の公表 (中期計画 37) | ①本学附属教育実践センター機構との共催、京都府・市教育委員会の後援により、研究発表会を開催する。 ②地域や全国の教育委員会その他学校関係者の学校訪問を積極的に受け入れる。 | * | * | * | * |

注) *印の欄は、年度末に記載予定